

医学教育分野別評価 秋田大学医学部医学科 年次報告書 2023（令和5）年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和3）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.35

はじめに

本学医学部医学科は、2021（令和3）年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022（令和4）年6月1日より7年間の認定期間が開始した。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.35 を踏まえ、2023 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2021（令和3）年10月2日（実地調査終了後）～2023（令和5）年3月31日を対象としている。

領域 1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・秋田大学の基本理念と基本的目標に基づいて、医学部の理念と医学科の目標が定められ、明示されている。
改善のための助言
・使命の中に生涯学習への継続について、教員や学生など教育の主要な構成者がより理解しやすいように明記すべきである。
改善内容・現在の状況
・令和3年度第1回カリキュラム評価委員会において、「医学部の理念」「医学部医学科の目標」「ディプロマ・ポリシー」「コンピテンス／コンピテンシー」について、各委員の意見を確認した。 ・令和4年度第1回カリキュラム評価委員会において、他大学の状況を踏まえながら、「医学部の理念」「医学部医学科の目標」について検討した。
今後の計画
・引き続きカリキュラム評価委員会を開催し、意見を聴取する。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B1.1-01 令和3年度第1回カリキュラム評価委員会 議事要旨 ・資料 B1.1-02 令和4年度第1回カリキュラム評価委員会 議事要旨

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

領域 1. 使命と学修成果

1.3 学修成果

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・卒業時に備えておくべき能力をコンピテンスおよびコンピテンシーとして定め、6年間ですべての学生が「卒後臨床研修開始時点に期待されるレベル」に到達できるように、全科目についてコンピテンシーからみた役割を明確化している。
改善のための助言
・使命（理念と目標）と学修成果（ディプロマ・ポリシー／コンピテンス／コンピテンシー）の相互関係と整合性に配慮すべきである。 ・学生および教職員に学修成果を十分に周知し、理解を求めるべきである。
改善内容・現在の状況
・令和3年度第1回カリキュラム評価委員会において、「医学部の理念」「医学部医学科の目標」「ディプロマ・ポリシー」「コンピテンス／コンピテンシー」について、各委員の意見を確認した。 ・令和4年度第1回カリキュラム評価委員会において、他大学の状況を踏まえながら、「医学部の理念」「医学部医学科の目標」について検討した。
今後の計画
・新コアカリキュラムの整備を進めた後、学修成果の周知と理解をより深めていく予定である。具体的には、学内・院内における掲示、シラバスやウェブサイトでの周知、カード配布、教員を対象としたFDの開催などを検討している。
改善状況を示す根拠資料
・【再掲】資料 B1.1-01 令和3年度第1回カリキュラム評価委員会 議事要旨 ・【再掲】資料 B1.1-02 令和4年度第1回カリキュラム評価委員会 議事要旨

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

領域 1. 使命と学修成果

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・使命と学修成果の策定に学生が参加すべきである。
改善内容・現在の状況
・令和3年度第1回カリキュラム評価委員会において、「医学部の理念」「医学部医学科の目標」「ディプロマ・ポリシー」「コンピテンス/コンピテンシー」について、学外有識者や学生代表を含む各委員の意見を確認した。 ・令和4年度第1回カリキュラム評価委員会において、他大学の状況を踏まえながら、「医学部の理念」「医学部医学科の目標」について検討した。 ・カリキュラム評価委員会で検討した内容については、カリキュラム検討委員会等に提供し、改善のための参考資料としている。
今後の計画
・引き続きカリキュラム評価委員会を開催し、意見を聴取する。
改善状況を示す根拠資料
・【再掲】資料 B1.1-01 令和3年度第1回カリキュラム評価委員会 議事要旨 ・【再掲】資料 B1.1-02 令和4年度第1回カリキュラム評価委員会 議事要旨 ・資料 B1.4-01 秋田大学医学部医学科カリキュラム評価委員会規程 ・資料 B1.4-02 カリキュラム検討委員会への議事要旨提供

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・使命と目標とする学修成果の策定には、患者代表、地域医療機関代表、他医療職種など、より多くの広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。
改善内容・現在の状況
・カリキュラム評価委員会（医師以外の医療従事者代表、学外医療機関の代表、学外有識者、患者代表等を委員に含む）において、教育について幅広く意見を聴取している。 ・聴取した意見については、カリキュラム検討委員会等に提供し、改善のための参考資料としている。
今後の計画
・引き続きカリキュラム評価委員会を開催し、意見を聴取する。
改善状況を示す根拠資料

- ・ **【再掲】** 資料 B1.1-01 令和3年度第1回カリキュラム評価委員会 議事要旨
- ・ **【再掲】** 資料 B1.1-02 令和4年度第1回カリキュラム評価委員会 議事要旨
- ・ **【再掲】** 資料 B1.4-01 秋田大学医学部医学科カリキュラム評価委員会規程
- ・ **【再掲】** 資料 B1.4-02 カリキュラム検討委員会への議事要旨提供

領域 2. 教育プログラム

2.2 科学的方法

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・臨床実習の現場で、EBMによる教育が活用されている。
改善のための助言
・「研究配属」で実践的な研究を学生が体験し、発表する機会を増やすべきである。
改善内容・現在の状況
・医学科3年次「研究配属」において、令和4年度より、配属ごとに選抜された代表の学生／学生グループが、最終週に行われる全体の研究発表会で研究発表を行うこととし、2022年7月に実施した。また、その旨をシラバスに明記した。 ・「研究配属」研究発表について、「第1回 基礎・社会医学講座談話会」において検討した。発表形式や英語化の必要性、学生どうし質問を促す方法等、今後の改善に向けて議論を行った。
今後の計画
・EBMによる教育について、更に強化する。（6年間のバランス、実習中の各科実戦計画等）
改善状況を示す根拠資料
・資料 B2.2-01 令和4年度「研究配属」シラバス ・資料 B2.2-02 令和4年度 研究配属発表会抄録集 ・資料 B2.2-03 「研究配属」研究発表 学生アンケート（抜粋） ・資料 B2.2-04 「第1回 基礎・社会医学講座談話会」資料

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・自殺要因分析など秋田県における重要な課題の研究要素をカリキュラムに含めている。
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

領域 2. 教育プログラム

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・低学年から臨床医学と関連づけた教育を導入し、基礎医学、社会医学および臨床医学を適切な関連と配分で構成していることは評価できる。
改善のための助言
・行動科学の教育を臨床医学に結び付けて体系的に構成すべきである。
改善内容・現在の状況
・水平-垂直統合型教育を促進するために各講座から教育主任を選定した。 ・各講座間の教育内容の再調整を行うために、「医学教育・医師養成教育の質向上のための意見聴取（照会）」として、医学教育・コア・カリキュラムにかかる現状調査を実施した。各講座教育主任から、現状の教育の課題や要望について意見を聴取している。
今後の計画
・教育主任が構成する WG やカリキュラム検討委員会を中心に、教育プログラムの見直しを行い、行動科学の教育を臨床医学に結び付けられるように再構成する。 ・今後、行動科学が重視されている新コアカリの項目を網羅して、各科でもバランスよく計画していく。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B2.6-01 教育主任推薦及び選定 ・資料 B2.6-02 「医学教育・医師養成教育の質向上のための意見聴取」

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・選択科目として、「基礎医学アドバンストコース」、「臨床医学アドバンストコース」が設定されていることは評価できる。
改善のための示唆
・基礎医学、臨床医学それぞれで水平的統合をさらに進めることが望まれる。 ・基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合をさらに進めることが望まれる。
改善内容・現在の状況
・水平-垂直統合型教育を促進するために各講座から教育主任を選定した。 ・各講座間の教育内容の再調整を行うために、「医学教育・医師養成教育の質向上のための意見聴取（照会）」として、医学教育・コア・カリキュラムにかかる現状調査を実施した。各講座教育主任から、現状の教育の課題や要望について意見を聴取している。 ・「第 1 回 基礎・社会医学講座談話会」において、統合教育推進についてフリーディスカッションを行った。
今後の計画

- ・ 関連する委員会，会議等で検討と改善を進め，さらに統合教育を推進する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 【再掲】資料 B2.2-03 「第 1 回 基礎・社会医学講座談話会」資料
- ・ 【再掲】資料 B2.6-01 教育主任推薦及び選定
- ・ 【再掲】資料 B2.6-02 「医学教育・医師養成教育の質向上のための意見聴取」

領域 3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
<ul style="list-style-type: none">・ 1 年次に外国人 SPs を含む医療面接 OSCE、動画を活用した聴診 OSCE やエコー OSCE を導入していることは高く評価できる。・ 2001 年から全国最大規模のステーション数で「PostCC-OSCE」を卒業試験として実施していることは高く評価できる。・ 知識の定着をはかるため、体系的に全学年で統一試験を実施していることは評価できる。
改善のための助言
<ul style="list-style-type: none">・ 低学年から、より体系的な態度評価の仕組みを構築し、実施すべきである。・ 評価結果に対して疑義申し立て制度を明文化すべきである。
改善内容・現在の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 「秋田大学医学部医学科試験に関する内規」を改正し、疑義照会に関する取り決めを明文化した（第 10 条 疑義照会）。
今後の計画
<ul style="list-style-type: none">・ 低学年からの、より体系的な態度評価の仕組みの構築について検討する。
改善状況を示す根拠資料
<ul style="list-style-type: none">・ 資料 03.1.-01 秋田大学医学部医学科試験に関する内規

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
<ul style="list-style-type: none">・ 「PostCC-OSCE」の評価者に学外臨床実習先の指導医を活用していることは評価できる。
改善のための示唆
<ul style="list-style-type: none">・ 基礎医学・社会医学実習評価表はプロフェッショナリズム評価の観点为主体であり、評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。・ 臨床実習での経験記録、実習中の mini-CEX、360 度評価等の普及を図ることが望まれる。
改善内容・現在の状況
<ul style="list-style-type: none">・ なし
今後の計画
<ul style="list-style-type: none">・ なし
改善状況を示す根拠資料
<ul style="list-style-type: none">・ なし

領域 3. 学生の評価

3.2 評価と学修との関連

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・教育の各段階において、学修成果の到達度を評価する基準を定め、学生を評価すべきである。 ・形成的評価の有効な利用を促進し、学生の学修をさらに促進すべきである。
改善内容・現在の状況
・学修成果の到達度を評価する基準として、コンピテンス／コンピテンシーを定め、シラバス等に記載し周知している。
今後の計画
・カリキュラム検討委員会において、各分野の評価に関する改善案を提案していく。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B3.2.-01 コンピテンス／コンピテンシー

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

領域 4. 学生

4.4 学生の参加

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・使命の策定、教育プログラム管理、学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参加すべきである。 ・教育プログラムの策定、評価に関する委員会に学生が参加しているが、実質的に適切な議論に加わるべきである。
改善内容・現在の状況
・学生代表が参加するカリキュラム評価委員会において、カリキュラムの改善について積極的な議論を行っている。令和4年度第1回カリキュラム評価委員会において出された意見について、カリキュラム検討委員会における検討材料とするため、議事録を提供した。
今後の計画
・引き続きカリキュラム評価委員会を開催し、意見を聴取する。 ・学生に関する諸事項については、「同窓会と学生会員の連絡会」を引き続き開催し、意見の聴取を積極的に行う。
改善状況を示す根拠資料
・【再掲】資料 B1.1-02 令和4年度第1回カリキュラム評価委員会 議事要旨 ・【再掲】資料 B1.4-02 カリキュラム検討委員会への議事要旨提供

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・シミュレーション手技体験、ボランティア活動や学童の保健教育に関わる「医療活動サークル MedicA」の活動を奨励していることを、実地調査において確認した。
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

領域 6. 教育資源

6.4 医学研究と学識

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・「研究配属」で実践的な研究をすべての学生が体験する機会を増やすことが望まれる。
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・研究配属の最後に研究発表会を実施し、すべての学生だけでなく教員も参加して実施している。発表会を実施することにより、すべての学生が主体的かつより積極的に実践的な研究を体験する機会が増えている。
改善状況を示す根拠資料
・【再掲】資料 2.2-01 令和 4 年度「研究配属」シラバス ・【再掲】資料 B2.2-02 令和 4 年度 研究配属発表会抄録集 ・【再掲】資料 B2.2-03 「研究配属」研究発表 学生アンケート（抜粋）

領域 6. 教育資源

6.6 教育の交流

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・国内外教育機関との交流をさらに推進すべきである。
改善内容・現在の状況
・東サラエボ大学（ボスニア・ヘルツェゴビナ）との新たな提携を構築した。 2023年2月に大学間協定を締結した（併せて、本報告書の対象期間外であるが、同年4月に医学部部局間協定を締結している）。今後、教員及び学生の交流プログラムを実施予定である。 ・また、学生の短期留学プログラムの支援や、海外の大学からの学生受入等も積極的に支援している。なお、新型コロナウイルス流行の影響により、2022年度は海外派遣のみ実施し、学生受入は行わなかった。 ・2023年3月17日「秋田大学国際交流委員会・産婦人科学講座 特別講演会」を開催した（ハイブリッド講演会）。Pittsburgh Development Center Gerald P. Schatten 先生と順天堂大学産婦人科教授 河村和弘先生をお招きした。
今後の計画
・国内外教育機関との交流推進について、引き続き推進していく。国際交流委員会で検討を進めている。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B6.6.-01 東サラエボ大学 協定資料 ・資料 B6.6.-02 2022年 海外派遣一覧 ・資料 B6.6.-03 医学部ウェブサイト（短期留学） ・資料 B6.6.-04 秋田大学国際交流委員会・産婦人科学講座 特別講演会

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・医学部医学科国際交流基金より、海外派遣学生全員に旅費その他必要経費を支給している。
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

領域 7. 教育プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・2020年度に「医学部教育評価・IRセンター」と「カリキュラム評価委員会」が発足し、教育プログラム評価を実施する体制が整えられた。
改善のための助言
・学生の進歩について、試験の成績だけでなく、コンピテンス、コンピテンシーの達成レベルの観点から教育プログラムの評価を行うべきである。 ・カリキュラムの評価に関わる委員会として「評価・IR委員会」と「カリキュラム評価委員会」があり、より効率的な評価が適切に実施できるよう体制を整備すべきである。 ・「カリキュラム評価委員会」は2021年3月3日に第1回が開催されたばかりであり、実質的に活動させて教育プログラム評価を実施し、その結果をカリキュラムに確実に反映させるべきである。
改善内容・現在の状況
・令和3年度より、卒業時アンケートにおいて、コンピテンス／コンピテンシーの達成レベルを自己評価させることとし、結果についてカリキュラム評価委員会で検討している。
今後の計画
・「評価・IR委員会」「カリキュラム評価委員会」について、引き続き開催し、体制の整備を進めていく。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B7.1.-01 令和4年度卒業時アンケート ・【再掲】資料 B1.1-02 令和4年度第1回カリキュラム評価委員会 議事要旨

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・長期間で獲得される学修成果、社会的責任について、定期的に教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

領域 7. 教育プログラム評価

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・卒業時アンケート調査でのディプロマ・ポリシー達成度の分析だけでなく、使命と学修成果の達成について、学生と卒業生の実績を分析すべきである。
改善内容・現在の状況
・令和3年度より、卒業時アンケートにおいて、コンピテンス／コンピテンシーの達成レベルを自己評価させることとし、結果についてカリキュラム評価委員会で検討している。
今後の計画
・卒業生の実績についても、今後分析方法を検討する。
改善状況を示す根拠資料
・【再掲】資料 1.1-02 令和4年度第1回カリキュラム評価委員会 議事要旨

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・背景と状況に関して、学生と卒業生の実績を分析し、教学に関わる各種委員会にフィードバックすることが望まれる。
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし